



淀川三十石船川下りと淀川資料館の見学

「川と街道を訪ねて-NO.6」は、期間限定イベント「甦れ！淀川の舟運」淀川三十石船川下り：枚方宿船着場から大阪天満の八軒屋浜船着場まで、屋形船風の遊覧船で船旅を楽しみました

参加者：浅野・宇藤・大石・金高・金戸・上條・児玉・坂根・中西・秦・日景・藤井・前野・藤本・李三・山下・倭・山本裕 以上18名

- 1：日 時 平成29年9月28日（木） 10時～16時
- 2：集合場所 京阪枚方市駅北口 雨天決行
- 3：持ち物 飲み物、雨具、 等
- 4：目的地 淀川資料館、枚方宿、鍵屋資料館、淀川河川公園、三十石船乗船
- 5：行 程 約2km
- 6：参加費 3500円 （三十石舟乗船料4500円ですが1000円森海科補助）  
割烹藤での食事代：定食750円は個人負担

京阪枚方市駅 ⇒ 淀川資料館 見学

ビデオを見て淀川の歴史を学ぶ。昔は澱川、この漢字が使われていた。流れが遅く水が澱んでいるみたい・澱む川が淀川と言われるようになった。町より高い位置に流れている。天井川であった  
現在の淀川に至るまでには沢山の人の苦難、智慧、努力、尽力があった



ヨハネス・デ・レイケ・ オランダ人明治6年来日、日本全国で、河川・港湾、砂防などの工事指導。  
沖野忠雄・フランス留学 土木技術を学び、帰国後、各地の河川改良工事に関わり、淀川改良工事の中心人物です。  
大橋房太郎・大阪を洪水から守るため淀川の工事が行われるように国にお願いし続けました。淀川の治水翁と言われる

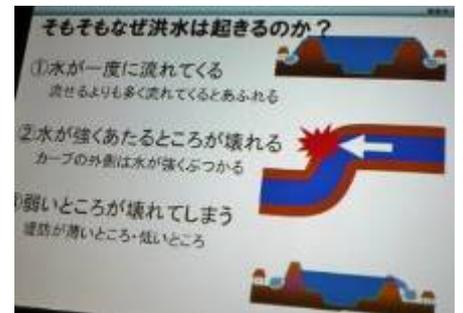
水害に強い淀川にするためには？

- 1) 水が一度に流れてくるから・・・流れる水を調節する。
- 2) 水が強く当たる所が壊れる・・・まっすぐにして流れやすくする。
- 3) 弱い所が壊れてしまう・・・強い堤防を作る。

南郷洗堰による・淀川の洪水調節

大川大堰・毛馬排水機場・毛馬水門・毛馬閘門・それぞれの分野での役割があって洪水から町は守られている。

淀川の堆積土砂は常に採取されている 良質の砂で 毎日土砂採取船で取り 大川護岸に積み上げられている。



その後館内自由見学して枚方公園駅近くの割烹藤で昼食  
お座敷の椅子席で美味しくいただきました。



枚方宿鍵屋資料館へ・・・館内の案内をして頂き自由見学・・・  
 徒歩にて枚方船着場へ  
 三十石船乗船  
 和菓子とお茶のおもてなし・  
 有志でビールおつまみ持ち込み楽し  
 しい船旅です。

淀川を知り尽くしたガイドのおじ  
 さんと、民謡の二人のおばさん、  
 案内も歌もとても上手くて、お客さんは合いの手を入れたりして満足でした。



いよいよ毛馬の閘門です・・・船は水位調節の閘門に入りました。  
 大川との境目には大きな扉が閉まっています。後ろの閘門と淀川の境目の扉が閉まり始めました。  
 閘門の中の水位は今淀川の水位と同じです。大川の水位はそれより低い為、閘門内の水抜きをして大川  
 の水位と同じになります。  
 船前方の扉が上がって、いよいよ閘門を通過して大川に進みます。その間15分かかりました。

大川に入りました。(22 km) 天満橋八軒屋浜で下船 (16:00)

記録：坂根

